

令和5年度第2回 岡崎市美術博物館協議会会議録

1 開催日時及び場所

令和6年2月6日（火）14:00～15:26

岡崎市美術博物館 1階会議室

2 出席委員（定数10名 1名欠席）

会 長	井上 瞳	（学識経験）		
	野田 光宏	（社会教育・家庭教育）	長坂 博子	（学校教育）
	鈴木 章司	（社会教育）	太田 公典	（社会教育）
	林 羊歯代	（学識経験）	荒井 信貴	（学識経験）
	菅沼 和子	（市民公募）	三輪 哲也	（市民公募）

（欠席委員は、竹平 真仁（学校教育）1名）

3 館長及び説明のため出席した事務局職員（6名）

美術博物館特任館長	榊原 悟	社会文化部長	中村 耕
美術博物館長	前島 豊	美術博物館副館長	大澤 一実
地域文化広場館長	五十嵐千草	美術館長	犬塚 恵子

4 会議の成立

事務局より、委員10名のうち9名が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

5 会議の内容

次第1 報告事項

（1）令和5年度 展覧会開催状況について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和5年度に実施した美術博物館、地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員A＝知り合いの方々からコメントをいただいたので、この場を借りて紹介したい。

1つは美術博物館の「138億光年宇宙の旅」について、知り合いの80歳近い女性

の方が、友人に連れて行かれて展覧会を見たが、すごくよかったと感激されていた。今までこのような場所に興味はなかったが、とても素晴らしかったので、友達にも紹介したとおっしゃっていた。楽しかったので、このような機会があつてありがたかったとの感想をいただいた。もう1点は別の知人からだが、地域文化広場は、子どもの美術博物館というイメージだが、市外の大人も興味を持っており、どんな企画があるかいつも楽しみにしており、学芸員をリスペクトしていると言われた。また、この場で言うべきではないと思うが、地域文化広場は公共交通機関によるアクセスがない。美術博物館はバスがあるが、地域文化広場は、市外の方からは公共交通機関でのアクセスがあると便利だとのコメントをいただいたので、この3点について披露させていただく。

議長＝公共交通機関は一切なかったか。

委員A＝そのファンの方は美合駅からタクシーを利用しているが、美術博物館のようにせめて東岡崎駅からバスがあるといいなと言われていた。

特任館長＝子ども美術博物館と言いながら、子どもだけで来ることができないという批判については重々承知している。美術博物館、地域文化広場ともにアクセスについては、館だけでなく、市全体の問題で努力目標だと思うが、私としても何とかしたいと思っはいる。

議長＝車しか利用したことがなかったので、気が付かなかったが、このような意見が協議会の場で発言されているということは、繰り返し上へ伝えていただきたい。

委員B＝今回の展覧会「リアリズムの視線―戦後具象美術と抽象美術」は戦後の美術の動向や少しだがこの地域の私も知らなかった美術の小さなグループの紹介など、これまでにない視点も含まれていた。タイトルが難しそうなのでどうかと思ったが、絵画教室の生徒さんなどを見ると、いろんな表現の形があり、いいのではと思った。市内の絵画教室などにアピールできる関連イベントがあるとよかった。

事務局＝今回は関連イベントをたくさん設けられていない。委員のご意見は今後に生かせるよう参考にしたい。

特任館長＝今回「リアリズムの視線」に出品した作品の半数は美術博物館の収蔵品。子ども美術博物館の作品も展示している。美術博物館にも地域文化広場にも誇るべき収蔵品が多くある。なかなか活用ができずにいるが、ビュフェの作品をもらいうけたことがきっかけで今回の展覧会は企画された。美術博物館も地域文化広場もいい作品を数多く収蔵しているので、収蔵品を活用していきたいと考えている。学芸員としては一番基礎的な作業だと思っはおり、今回は私としてはかなりそのオーダーにっえてもらえたと思っはいる。

議長＝自主企画で自館の収蔵品を核にした展覧会を開催するというのは非常に重要なことで、今回のような収蔵品を活用した自主企画が年1回でもできると思う。

委員C＝素晴らしい収蔵品がたくさんあるのはその通りだと思う。従来は12月に美術館でも三岸節子や荻太郎など企画展や収蔵品展を開催していた。収蔵庫の整理を兼ねながら、収蔵品を市民にアピールできるので、美術館での収蔵品展が再開できる

といいと思う。

委員D＝まだ展覧会は見えていないが、チラシと「アルカディア」を読んで、盛りだくさんだと感じた。お堅い美術展という印象だが、美術に詳しくないとずっと入ってこないの、トークサロンは面白そうだなと思った。トークサロンの内容をSNSで発信できると面白いと思った。オムテモワンについては2、3年前に知ってから興味があるが、この展覧会はカタログがあるのか。

事務局＝図録を製作している。

特任館長＝館蔵品主体の図録は、ある程度小ぶりのサイズで作ることにしている。土人形などチャーミングな図録を今までに5、6冊製作している。収蔵品の整理も兼ねて、展覧会を開催し、記録として図録を製作している。今回の展覧会は収蔵品だけでは構成できなかったため、外部からも作品を借用しており、図録にも掲載している。著作権の関係もあるので多少の制限がある。

委員D＝学芸員の声が聞こえるような、このようなチャーミングな図録を今後も継続して製作してほしい。

委員E＝市民目線から見ると、「大河ドラマ特別展」も内容は素晴らしく、多くの方がいらっしやっただと思うが、小中学生が1,000人しか来ていない。大河ドラマ館の方が面白く、そちらには多くの子どもたちが行ったと思うが、美術博物館と大河ドラマ館は相互連携していたと思うので、市内に小中学生が3万人もいるのだからもっと子どもが来るとよかった。家康は最大の宝なので、多くの方、子どもたちに見てもらえるように広報の工夫がもっと必要かと思う。大河ドラマにも出演している岡崎市在住の俳優を呼ぶなどしても良かったと思う。「至高の紫」「宇宙の旅」の展覧会も素晴らしかったが、所狭しと作品が展示されており、狭く感じた。「宇宙の旅」は東京から来た孫も見た。子どもたちの数が少なく感じるの、もっと多くの子供たちに見て欲しかった。小中学生にチラシを配るだけでなく、何か工夫できるとよいと思った。

議長＝子どもへの広報について、事務局はどう考えているか。

事務局＝小中学校にはチラシを配布することしかできていないが、子どもだけで来館するのは難しいので、大人が子どもを連れてきたいと思えるよう、大人に向けてPRしなければならないと感じている。何かいい方法があればアドバイスいただきたい。

委員F＝学校の立場から発言させていただくと、歴史は小学校6年生からが対象なため、低学年でも興味のある子どももいるが、なじみが少ないと思う。今年度は地域文化広場の造形教室と大河ドラマ館をセットの行程にしてくれたので、参加した4年生の子どもたちは大河ドラマ館も楽しめたと思う。何かきっかけがあれば、子どもたちも見に行くと思う。学校現場の意見を聞いてもらえる場があるといい。おかざきっ子展の開催中は美術博物館で「至高の紫」を開催しており、自分は素敵だと思ったが、このタイトルでは子どもたちにはピンとこない。反して地域文化広場の「恐竜展」などは子どもたちの反応がいい。美術博物館と地域文化広場では求める

ものが違うので、仕方のない部分も多いかと思う。

委員G＝地域文化広場のチラシは孫の目に付くところに置いておくと、行きたがる。子どもにわかりやすいのも大事だが、大人としては、子どもや孫に見せる価値があるかどうかのポイントになると思う。テレビや新聞などで情報を知って、足を運んでもらい、見た人がSNSなどで発信すると、自分も行こうという気になるのではないか。まずここに足を運んでもらえるような仕掛けが必要かと思う。

議長＝個人的には「至高の紫」は上品でいいタイトルだと思ったが、一つの展覧会で老若男女すべての層にアピールすることは難しいと思う。1年に1回は来館してもらえよう、ターゲットをある程度搾りながら、その周辺を広げていくよう戦略的に考えていく必要があるかと思う。

委員H＝多彩な展覧会を開催していてよいと思う。「宇宙の旅」も写真展としてはとてもよかったが、美術博物館で開催したことには違和感がある。本市にはないので仕方がないが、科学館のようなところで開催し、帰りにプラネタリウムを見たり、後日天文観察に参加したりというのが本来かと思う。次の行動につなげるような展開を視野に入れながら展覧会ができるといいと思う。

次第2 議事

令和6年度開催予定の展覧会について

議長＝それでは議事の令和6年度開催予定の展覧会について、事務局からの説明をお願いします。

事務局＝（令和6年度開催の各展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員B＝地域文化広場のアールブリュットの特別展は常設展と同じように2階で開催か。1階は皆さん行くが、2階にはなかなか足を運ばないので、2階にも展示があるということをもっと周知できるとよい。

事務局＝特別展は1階の企画展の続きでみることができる。2階の常設展もいろんな箇所周知している。

委員B＝美術博物館の「ひらいて、むすんで」は幼い感じがするので子ども向けだと思っていたが、現代美術の展覧会であるなら、今若者に人気があるので、今更だが、何か工夫ができるとよい。

事務局＝今から何かを加えるのは難しいが、チラシを見れば現代美術の展覧会であるとわかる。先程からのご意見にあるよう、この展覧会もタイトルだけですべての内容は分からない。

委員G＝この展覧会をどのように知ってもらえるかが大事だと思う。

事務局＝新聞広告等は出す予定である。

特任館長＝タイトルについては考えが逆で、このような俗語を使うことで、親しみにくい現代美術の作品と結びつけている。

議長＝この展覧会は写真撮影が可能か。

事務局＝著作権の関係で難しい部分もある。

議長＝若者をターゲットとするなら写真OKの展覧会でないと、なかなか情報が伝わりにくい。今の若者は展覧会そのものへの興味というよりはむしろ、インスタ映えするものに興味がある。現代美術は若い人にも人気になっているので、写真撮影可能なものがあるのなら、撮影できるようにした方がいい。

委員D＝この展覧会もチャームな図録を製作するのか。SNSでの発信も大切だが、個人的には図録など書かれたものを読みたいと思うので、作品紹介や学芸員の解釈がわかるものをしっかり製作してもらえると嬉しい。

委員A＝子どもへのアピールは学校経由というルートだけでなく、例えばこども食堂や学習支援など市が関わっている別のルートのように、他のルートでも活用できるものがあるのではないかと感じた。

委員G＝今年度の実績を見ると目標人数を超えているものが多い。人数が達成できているのであれば、館の意図したものが伝わっているのではないかと。目標と実績のバランスがいいのであれば、特別な広報をしなくても、今のままでも問題がないのではないかと。

アールブリュットの特別展は料金がかかるのか。

事務局＝特別展は企画展の続きなので、料金はかからない。

委員D＝アールブリュットの常設展を開催している美術館は珍しいのか。

事務局＝常設展は公共施設では初めてと聞いている。

議長＝滋賀県立美術館や渋谷の公園通りギャラリーが有名ではないか。

委員D＝珍しいのであればもう少しクローズアップできるとよい。NHKの「no art, no life」という番組が好きでよく見るが、同じように独自のドキュメンタリー動画を制作し、PRできるといいと思う。

議長＝それでは、ご意見も尽きたようですのでお諮りします。令和6年度に開催予定の展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

(全員承認)

議長＝令和6年度開催予定の展覧会については、承認されました。先程多くの意見が出ましたが、事務局はただいまの意見を踏まえて、来年度予定されている展覧会をよりよいものにするために準備を進められるようお願いします。

次に、議事(2)の「令和7年度開催予定の展覧会計画について」事務局より説明をお願いします。

事務局＝（令和7年度開催予定の展覧会計画について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

議長＝ご意見が特にないようですので、ここでお諮りします。令和7年度開催予定の展覧会計画を執り進めることについて、承認していただけますか。

（全員承認）

議長＝令和7年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、先程までの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「3 その他」について、事務局から何かありますか。

事務局＝特にありません。

議長＝それでは本日の議事はすべて終了しました。

閉会あいさつ

特任館長＝本日は貴重な意見を頂戴しありがとうございます。いろいろなご意見を伺った中で、教育普及や広報の問題が、今後の博物館・美術館にとって大きなテーマになると思った。専従の職員を配置するのは難しいが、原点に戻り、お客様に足を運んでもらえるよう教育普及活動に取り組んでいきたいと感じた。

事務局＝以上で令和5年度第2回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

—以上—